

# 坂越（千種川流域）地区

## 地 勢

高雄地区から南流してきた千種川が山にぶつかって大きく南西に迂回し、赤穂地区へと流れていく延長約 3km の範囲である。平野と山地の間に緩斜面がほとんどなく土地も低かったため、古くから洪水に見舞われた。しかしこうした洪水は逆に、肥沃な土砂を運搬して、「庄内」と呼ばれる良好な水田地を生み出し、各村が自然堤防上に築かれていった。

江戸時代には、千種川の本流であった尾崎川（現在の千種川）を亀の甲でせき止めて赤穂城下町東に流し、高瀬舟の運航に活用していたが、明治 25（1892）年の大水害後は亀の甲が撤去され、現在の流路となっている。

## 歴 史

J R 赤穂線より南については、中世に遡る遺跡

が見つからない。おそらく、後世の洪水によって地盤ごと流されてしまったものと推定される。現段階では、浜市遺跡で弥生時代及び古代の集落跡が発見されているのみである。

野中は、かつて一つの村であったが、洪水によって破られて北野中村と南野中村に分かれたという。江戸時代初期の絵図ではすでに二つの村が分かれているため、その歴史は中世に遡るのだろう。池田時代の絵図では、北の山裾を通るように姫路街道が記されているが、浅野時代の絵図では、ここは有年道となり、代わりに川南を通る道が姫路への主要道となっている。

近年に行われている区画整理事業によって、かつての道はほとんど失われてしまったが、各村々に建てられた社寺は今も残されており、その景観を伝えている。

表 24 坂越（千種川流域）地区 年表

時 代	年 代	で き ご と
弥生時代中期 古墳時代後期 古 代	約 2,000 年前	定住の始まり（浜市遺跡、高野遺跡）
	6 世紀後半～7 世紀	高取山古墳群、高伏山古墳群、八重山古墳 建物跡が見つかる（浜市遺跡、下高谷遺跡）
中 世	天平勝宝 5(753) 年	赤穂郡坂越郷と呼ばれていた（「播磨国赤穂郡坂越神戸両郷解」）
	長暦元(1037) 年	古文獻に「坂越庄」がはじめて登場する（「平安遺文」）
	天文 3(1534) 年	誓教寺開基（「万福寺総末寺帳并邑郡附」）
	天文 9(1540) 年頃 天正 15(1587) 年 このころ	このころ、尼子将監義久が尼子山城を築いたという 宇喜多忠家、坂越・高野・中村・尾崎を地方知行か 野中村、洪水のため北野中村と南野中村に分かれる
近 世	このころ	亀の甲によって熊見川に導水
	正保 3(1646) 年	近藤正純、赤穂城の鎮守として城の北東に愛宕山社を建立
	慶安元(1648) 年 慶安 3(1650) 年	盤珪永琢、野中村にて悟りを開く 盤珪永琢、興福寺を開基
近 代	宝永 3(1706) 年	南野中村、北野中村、砂子村、浜市村、高野村明細帳
	明治 22(1889) 年	市制・町村制により坂越村の成立
	明治 25(1892) 年 明治 27(1894) 年	大水害により、南野中村が最多の死者を出す 亀の甲を撤去等の千種川改修工事が完了 千種川堤防修復のため、赤穂城二之丸石垣を転用
	明治 32(1899) 年	千種川に 92 間の木橋が架設される
現 代	大正 10(1921) 年	赤穂鉄道（赤穂－有年間）が開通
	大正 11(1922) 年	坂越橋（通称：旧坂越橋）が木橋として架設される
	昭和 11(1936) 年	町制度を実施し、坂越町となる
	昭和 15(1940) 年	国鉄赤穂線高取峠トンネル西口着工
	昭和 26(1951) 年	高雄村、赤穂町、坂越町と合併し、赤穂市となる 国鉄赤穂線開通、赤穂鉄道廃止
	昭和 30(1955) 年	坂越橋が架設される
	昭和 37(1962) 年	大日本紡績第二工場が高野に設立、排水のため宝珠山トンネルが掘削される 木津水源地完成
	昭和 38(1963) 年	高取峠新道が開通
	昭和 41(1966) 年	コンクリート製の坂越橋（通称：旧坂越橋）が架設される
	昭和 51(1976) 年	台風 17 号による大水害 上高野で石製銅鑄型片が発見される
平成 17(2005) 年	坂越駅周辺地区の土地区画整理事業開始	
平成 18(2006) 年	県道周世尾崎線（尾崎トンネル）開通	
平成 28(2016) 年	坂越大橋竣工、国道 250 号変更	